



石田衣良がマスコミ就職を斬る

息苦しくなるほど
ガチガチに決められた就活

「『シューカッ』は、出版社への就職を希望する大学3年生の千晴とその仲間たちが、難関といわれるマスコミ業界への就職に向け『シューカップロジェクトチーム』を結成し、内定を目指して切磋琢磨する物語。就職活動の緊張感がリアルに映し出されています。

石田さんがこの作品を書こうと思われたのは、なぜだったのでしょうか。

石田 若い編集者から就活の話聞いて、今の就活のシステムってものすごくでき上がっているなと思ったんです。この時期にこれとあれをやっ……というのがシステムティックに組み上げられていて、それが嫌だという人は弾かれてしまうんだよね。そこにある苦しさやおもしろさを書いてみたいと思ったんです。若い子たちが追い込まれている姿をちゃんと書きたいと思いました。

いまの就活生は本当に大変。僕らの頃は就活なんていい加減でしたからね。

2008年は春採用までは絶好調だったのに、秋採用でとたんに苦し

くなった。タイミングが悪すぎる。

――物語には、OB訪問やエントリーシート、面接など、就活の現状が詳しく描かれています。執筆にあたり、マスコミの就活についてどんなことを感じましたか。

石田 山のようにある就職関係の本をひととおり読んで、企業の採用担当や、入社して1〜2年目の若い編集者に取材をしたんですけれど、就活って息が詰まるくらいガチガチにいろいろなことを決められている、ということを感じたんですよね。その中で、受かりたい、勝ちたいなどと意気込むあまり、みんな自分を殺しすぎているという印象を持ちました。うまく就活できる人はいいですけど、できないならできないいいんじゃないかと思えますけどね。

チャンスは一度しかない
日本のシステムはプレッシャー

――取材をして一番印象に残ったことはどんなことですか？

石田 「シューカッ」の中にも生かしたんだけど、優秀な人ほどろくなっているということですね。傷つくことがすこく苦手だし、自分の

Ira Ishida

「石田衣良が マスコミ就職を斬る」

「就職のチャンスは一度しんが強く自分を笑い長く生き残れる編集者

出版社への就職を目指す大学3年生を主人公にした「シューカッ！」を上梓した石田衣良さん。石田さんは、マスコミ就職をどのようにとらえ、物語を生み出したのでしょうか。そして、石田さんはどんな編集者と一緒に仕事がしたいと考えているのでしょうか。

じゃない。
飛ばせる人が
だと思えます」

